

< 平成 23 年度管理運営の基本的な考え方と重点施策 >

**財団法人宗像市総合公園管理公社**  
**平成 23 年度事業計画**

平成 23 年 3 月

財団法人宗像市総合公園管理公社

< 目 次 >

1. はじめに	1
2. 平成 23 年度管理運営の基本方針及び重点施策について	
(1) 基本方針	2
(2) 重点施策	
① 文化事業	3～6
② 本館運営（営業・貸館事業）	7～8
③ プラネタリウム運営	9～10
④ アクアドーム運営、健康レクリエーション事業	11～13
(3) 運営全般	
① 施設管理・安全管理	14
② 組織・運営体制	15
③ 財政運営	16

## 1. はじめに

平成 23 年度は第二期指定管理者としての 2 年目になる。宗像市民の文化・芸術活動、スポーツ・健康づくり、生涯学習、まちづくりの拠点としての宗像ユリックスの存在感をさらに確かなものにしていきたい。

特に今年度は、二つの大きな節目を迎えるという意味で転換点にある。

一つは、宗像市文化芸術振興条例の制定を受けて策定された「宗像市文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」が、市の文化施策の具体的な展開として実働する年であること。その“一丁目一番地”として真っ先に挙げられた重点プロジェクトが①文化芸術の鑑賞・体験機会の確保、②宗像ユリックスでの鑑賞機会の創出である。これまで宗像ユリックスが進めてきた文化事業の路線をさらに継承・発展させるプロジェクトであり、市と連携しながらいっそうの確信をもってこれに取り組んでいきたい。

二つ目は、公益法人改革の仕上げの年であること。宗像ユリックスが公益財団法人として、市民から負託された社会的責務をいっそう果たしていくための再スタートともいえる改革であり、これをできるだけ早期に実現することが求められる。組織・運営体制、事業展開、財務システムなど多くの改革課題があるが、それらを宗像ユリックスの将来につなげる“チャンス”と捉えてこれに取り組んでいくこととする。

宗像市はいま市民参画・協働によるまちづくりを進めている。200 を超える市民活動団体や 13 のコミュニティ、さらに大学や各教育機関、事業所などと行政が連携して取り組むまちづくりは、全国でも注目の先行事例となっている。こうした流れと、宗像ユリックスの新展開は決して無縁ではない。上に掲げた二つのプロジェクトは、この宗像方式のまちづくりをいっそう拡大、発展させていくための起爆剤ともなる——そうした期待と自覚をもって新しい年度に立ち向かいたい。

## 2. 平成 23 年度管理運営の基本方針及び重点施策について

### (1) 基本方針

平成 23 年度は、第二期指定管理者制度の 2 年目であり、今後も運営はこれまでを踏まえながら、市民・利用者を主人公とした施設運営や芸術文化と市民文化を捉えた総合的な宗像文化の振興を図る。このことは、平成 22 年度に策定された「宗像市文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」の骨子をなすものである。

また、経営的志向に基づく効率的な管理運営を目指し、公社全職員と関係団体が一丸となって積極的に取り組む。

#### ①宗像市文化行政施策との連携・協力

これまでの芸術文化に関するノウハウ・スキルを活かし、市の文化行政施策への積極的な連携・協力を行う。市民ギャラリーの管理運営を通して、市所有絵画の企画展示や市民芸術家への支援を行う。また、これまで市が主催してきた文化事業の運營業務を共催で行う。

#### ②各コミュニティ運営協議会、各種団体、教育機関との連携など参画・協働の積極的な取り組み

市内各種文化団体や各種教育機関と協働で事業を行うことで、文化芸術活動の普及と振興を目指す。また、新たな客層の掘り起こしを行い将来の客層及び文化活動の賛同者の獲得を図る。

#### ③参加・育成型事業への重点シフト

これまでの参加・育成型事業を充実させ市民文化の振興と文化行政への寄与を行う。また、九州管楽合奏団によるクリニックやアウトリーチを強化し、芸術文化と市民文化を捉えた「宗像文化」の振興を目指す。

#### ④積極的な営業展開による顧客満足度の向上

利用者ニーズに沿ったマーケティング戦略や様々な顧客サービスの導入を図り顧客満足度を向上させ、利用者増加と収支改善に努める。

公益法人改革については、今年度中に申請・認定を終えて新しい公益法人としてスタートを目指す。

## (2) 重点施策

### ①文化事業

第一期指定管理期間より「参加型・育成（普及）型事業重視」の方向で事業展開を行った結果、多様な取り組みができるようになってきている。具体的な例をあげると、九州管楽合奏団の学校公演、クリニック、アウトリーチを中心として、「能教室・能鑑賞バスツアー」、「音楽講座」、「ピアノでつなぐ音楽会」などである。特に平成 22 年度に実施したアウトリーチ事業で印象に残る事業が、宮本益光・加藤昌則両氏による「特別介護老人ホームよつづか」で実施したものであり、アウトリーチの効果を肌で感じる事ができた。

平成 23 年度は、参加型・育成型事業の様々な取り組みの中でも特に、アウトリーチにスポットを当てて取り組んでいきたい。

また、「宗像市文化芸術のまちづくり 10 年ビジョン」の遂行に当たっても、文化行政の一翼を担う施設として、市及び関係部署と連携を深めていく。地域で活動する文化団体との交流を深め、例年以上の取り組みを図る。

鑑賞型事業においても、平成 22 年度に実施した「九州交響楽団宗像公演」の事前企画として実施した「“楽”しく“学”ぶクラシック 音楽会と音学会」の様に、鑑賞人口の少ないジャンルにおける普及的側面からの工夫ある事業展開を実施する。

#### ●参加型・育成（普及）型事業の継続と企画内容の充実

平成 23 年度はアウトリーチに重点を置き実施する。九州管楽合奏団の学校公演、クリニックは従来通り実施する。特にクリニックは学生からの要望も高く、実施時期についても学校の吹奏楽部指導者の意見を聴きながら設定する。

アウトリーチ活動の総称を「いきいき出前コンサート～子どもたちへ、施設へ、まちかどへ～」とする。プロの演奏家による本物の音を通して、「生きる喜び」や「感動する心」、「豊かな感受性」を育むことを目的とする。また、継続的に実施するための環境整備として、「オフィシャル・サポーター制度<sup>1</sup>」の導入とアーティストの登録制度を創設する。

#### ●鑑賞型事業の工夫のある展開

昨年に続き、8 月にハーモニーホールにおいて「九州交響楽団 宗像公演」を実施する。この事業の狙いは、様々な音楽メディアが溢れる現代において、

<sup>1</sup> 「宗像ユリックスいきいき出前コンサート」の実施に対する協賛制度。日頃、生の音楽に触れる機会の少ない人達を対象に行うコンサートへの協賛金として一口 5 万円で募集。平成 23 年度より実施。

コンサートホールに足を運び「音楽を生で聴く楽しみ、感じるこころ」を伝える事である。コンサート前に「音学会」と称する講座を2回開催し、期待感を高めた上でオーケストラの生の演奏に臨むという企画である。単なる鑑賞型事業に終わらせず、クラシック音楽の普及という目的も併せ持つ。

12月には「年忘れ！大爆笑！！全国アマチュア落語名人会」を開催する。全国からアマチュア落語家15人を招き、2部構成で実施する。

- 「宗像市文化芸術のまちづくり10年ビジョン」の取り組みによる連携強化  
宗像市と連携し、「むなかた芸術祭」・「むなかた吹奏楽祭」・「むなかた文化祭」・「むなかたこども芸術祭」を実施する。

平成23年度より新たに「宗像市文化芸術のまちづくり10年ビジョン」への取り組みを開始する。事業を進めるための環境を整え、継続的に効果的に運営できる体制作りからスタートする。

- 文化団体との連携強化

地域で活躍する文化団体が主体となって行う公演を3公演実施する。

5月に、リズムミックダンスと津屋崎少年少女合唱団との交流事業を実施する。8月は、宗像市少年少女合唱団が玄界灘ジョイントコンサートに出演し、他団体との交流を図る。また11月は前回好評であった「ドリームバンドコンサート」を開催する。

- 営業力強化による事業収支の改善

参加型・育成型事業への取り組み強化を行っていく中で、鑑賞型事業の収支改善が必要となってくる。

- ① 収支を強く意識するマインドの醸成  
チケット販売計画の早期立案と進捗管理
- ② P. D. C. A. サイクルでの事業管理
- ③ 特定事業（九管ポップスコンサート等）を設定し事業部全員で取り組み実施。

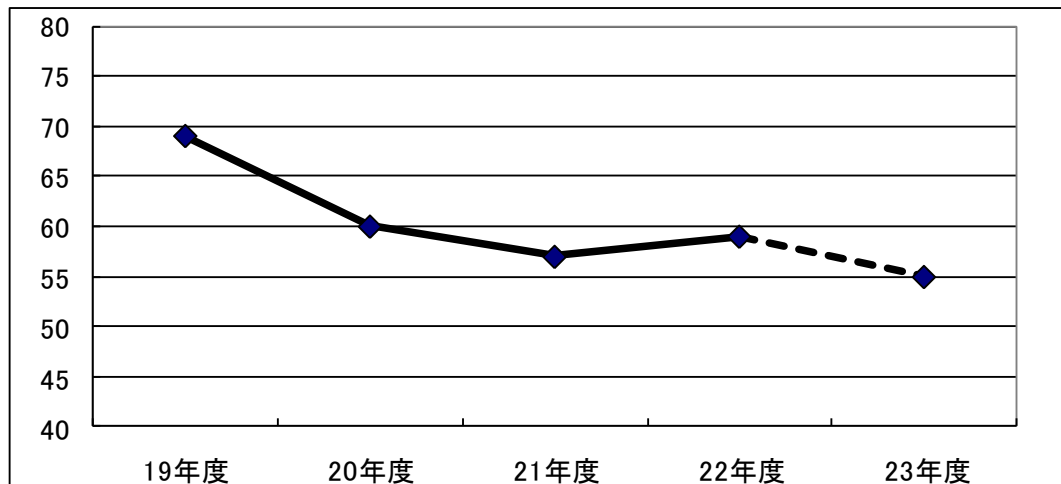
【 数値目標 】 ●事業本数 【55 本】

平成 23 年度は、共催事業を含め年間 55 本とする。

事業本数（ジャンル別）

※22 年度は見込値、23 年度は目標値

事業ジャンル	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
音楽(クラシック)	7	7	8	9	9
音楽(クラシック以外)	9	8	4	5	5
映画	20	15	18	13	12
演劇・古典芸能	9	9	13	9	9
美術	2	3	3	4	2
アウトリーチ	5	3	6	6	5
その他	17	15	5	13	13
合計	69	60	57	59	55



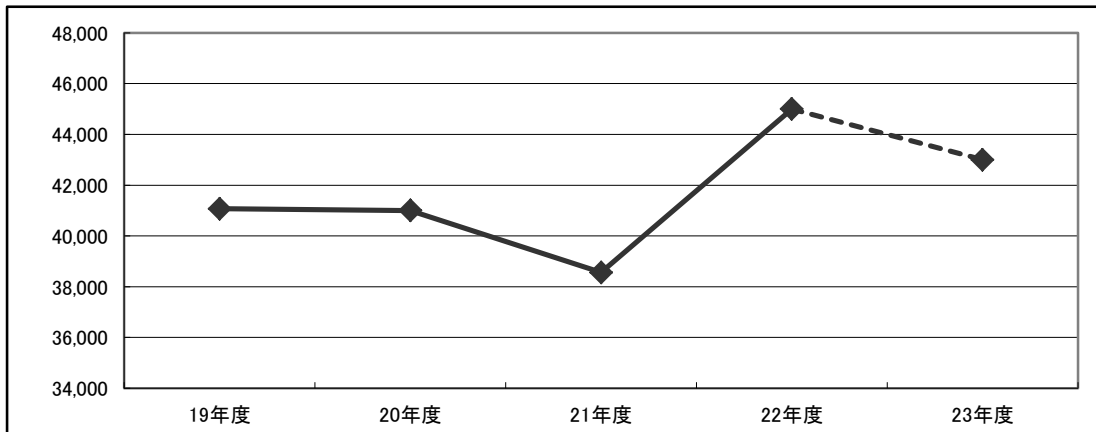
【 数値目標 】 ●入場者数 【43,000 人】

入場者数は、事業本数 55 本実施を前提条件として、43,000 人を目標とする。事業毎の目標を明確にし、達成に向けた施策の立案・実施を行う。

文化事業・入場者数の推移

※23 年度は目標値

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
入場者数	41,070	41,000	38,560	45,000	43,000
対前年比	109.7%	99.8%	94.0%	116.7%	95.6%
対前年人数	3,631	△ 70	△ 2,440	6,440	△ 2,000



※22 年度より宗像市主催の 4 事業が公社共催へ変更。

**【 数値目標 】 ●ユリックス倶楽部会員数 【3,500 人】**

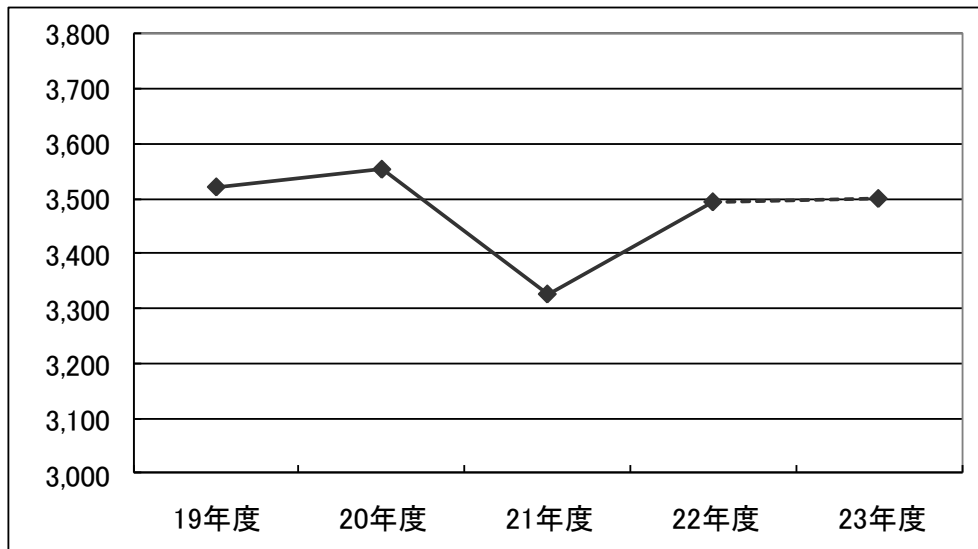
会員数目標 3,500 人（前年会員数 3,494 人、前年比 100.2%）とし、以下の対策に取り組む。

- ① インフォメーション、電話でのチケット購入時の勧誘の徹底
- ② 館内告知の強化
- ③ 勧誘チラシの新聞折込（宗像市・福津市・宮若市）
- ④ 前年会員で非継続会員へのダイレクトメール（宗像市・福津市・宮若市）

**「ユリックス倶楽部」会員数の推移**

※22 年度は見込値、23 年度は目標値

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
会員数	3,521	3,553	3,327	3,494	3,500
対前年比	165.3%	100.9%	93.6%	105.0%	100.2%
対前年人数	221	32	△ 226	167	6





## ② 本館運営（営業・貸館事業）

中央公民館やアクシス玄海の閉館に伴い、その施設の利用者を宗像ユリックスの新たな顧客として獲得できるようにする。また、「夜間有料学習室」や「スタジオ当日割引」などお客様に支持されたサービスを継続し、同手法を生かした新企画を提案していくことで、利用者満足度の向上を図る。

さらに、お客様の視点・立場に立った施設運営を図るため、施設・備品を整備するなど利用環境を向上させ、常に新サービスを提供することで、「利用者数アップ」、「稼働率アップ」、「利用料金収入アップ」へつなげる。

夜間区分<sup>2</sup>の貸出について、現在の取り組みを継続的に実施するとともに、年度内に新割引案を導入して夜間区分の利用率 40%を目指す。

一定条件を満たした団体への早期施設貸出制度や展示室（ギャラリー）の非営利・営利団体の貸出時期統一化、市内学校関係者の利用を促進するための方策を検討し、顧客の囲い込み努力を続けていく。

また、初めてホールや展示室をご利用の方に、わかりやすいパック料金プランを検討し、学校の吹奏楽練習や発表会、企業研修会などで使ってみようと思っただけの提案をしていく。

案内窓口においては、インフォメーション職員の接遇能力向上を図るため積極的な研修を行うとともにクレジットカードや電子マネーなどで施設料やチケット代金の支払いに対応できるように検討していくことで、お客様の多様なニーズに応えられるようにする。

宗像ユリックスホームページから取得できる情報を充実させることや施設内無線LANを整備して来館者のためのインターネット環境を向上させることで、施設使用者だけでなく観客として来た方にも喜んでいただける空間を提供する。

---

<sup>2</sup> 施設については、午前（9時～12時）、午後（13時～17時）、夜間（18時～22時）の3区分で貸出。

【 数値目標 】

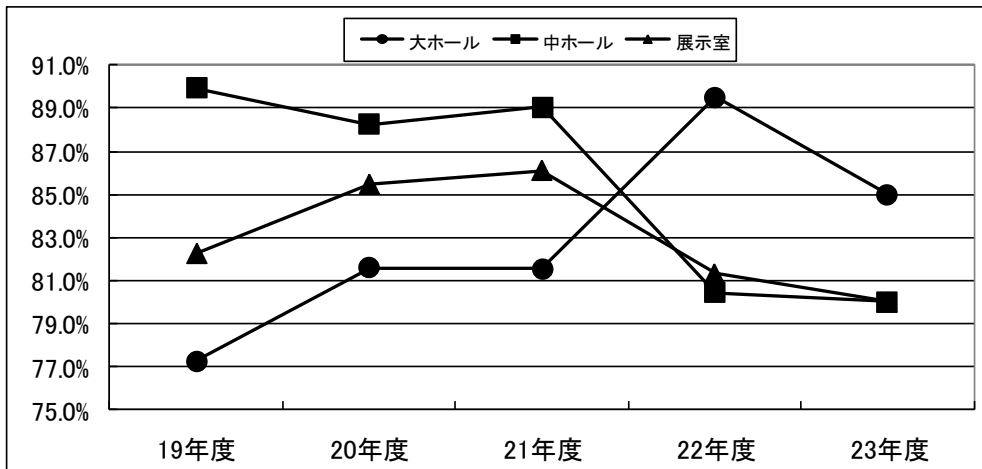
●3大施設平均利用率 81.7% 【大ホール 85%、中ホール 80%、展示室 80%】

3 大施設利用率の推移

※22年度は見込値、23年度は目標値

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
3大施設利用率	83.1%	85.1%	85.6%	83.7%	81.7%
大ホール	77.2%	81.6%	81.5%	89.5%	85.0%
中ホール	90.0%	88.2%	89.1%	80.4%	80.0%
展示室	82.3%	85.5%	86.1%	81.3%	80.0%

※利用率は、貸出可能日数のうち利用された日数の割合



●本館等利用者数 570,000人 / 本館等利用料金 61,000,000円

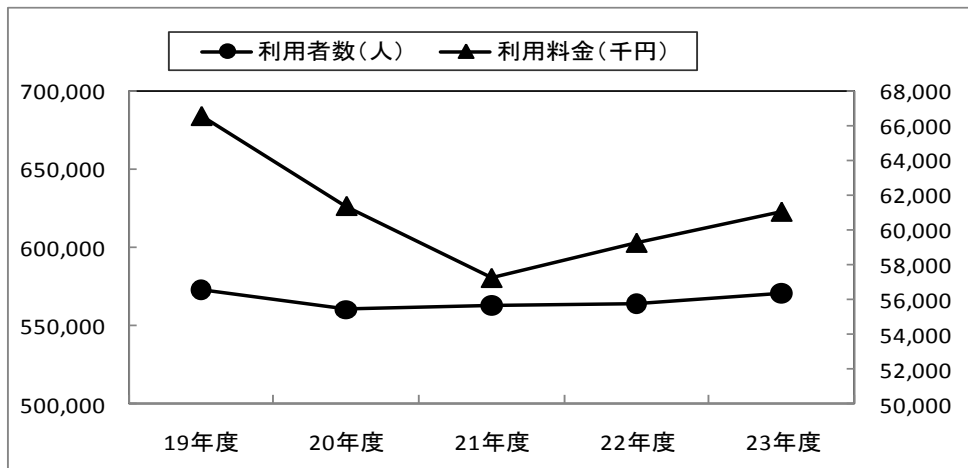
【 本館利用者数・利用料金の推移 】

※22年度は見込値、23年度は目標値

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
利用者数(人)	572,437	559,610	562,311	563,829	570,000
対前年比	104.7%	97.8%	100.5%	100.3%	101.1%
利用料金(千円)	66,499	61,333	57,196	59,215	61,000
対前年比	111.5%	92.2%	93.3%	103.5%	103.0%

※利用者数：本館一般施設、図書館の利用者と視察者の合計人数

※利用料金：本館一般施設の利用料金収入額



### ③ プラネタリウム運営

特定非営利活動法人エム・ワイ・ピーとの「協働」運営の6年目であり、基本的な事業の方向性・指針はこれまでどおり「地域に愛されるプラネタリウム」を目指すことを第一に事業を展開する。

これまでの活動の成果もあってリニューアルが決定し、念願のリニューアルオープンを迎えることができた。国内4館しかない九州初のカール・ツァイス製<sup>3</sup>のプラネタリウムが導入されたことで星が大変綺麗に見え、さらにデジタル技術が取り入れられたものへと生まれ変わった。これらのリニューアルして変わったものや、これまで実施して好評を得ていた部分を融合しながら、新しいプラネタリウムとしてPRし、一層の充実と飛躍を図っていく。

リニューアルにより、番組もそれに合う形へ変更をし、対象年齢に合わせた3つのプログラムを用意する。解説員の生解説による投影は九州では宗像ユリックスだけである。ハードだけではなく、ソフトについてもオリジナリティをPRして満足度をより高めた。また、広報については、リニューアル効果が長期的に継続できること念頭におき、計画的に実施していく。

さらに、小学4年生を対象にした学習テーマのリメイク、小学6年生の学習テーマへの対応などがある。それらについても新機能により内容を深め、夢を育むものにしていく。宗像市および教育委員会と連携し、教育的な効果も求めていく。

「サイエンスカフェ」は、年2回実施する予定で、宗像地域で唯一「サイエンス(科学)」をテーマとした施設の特性を活かした運営を継続的に実施する。

ほしぞらスタッフ(ボランティア)活動については今後も継続していく。一昨年から急激に増えたメンバーが活動に慣れてきたこともあり、より一層の期待ができる。ボランティアの自主性を重視した活動を行ないたい。

リニューアルにより、ハードはもちろんソフト面も見直されたが、今後もお客様の声を聞きつつ、よりお客様に喜ばれるもの・知的好奇心を掻き立てられるものを目指した運営を行っていく。

---

<sup>3</sup> カール・ツァイスは世界有数の光学メーカー(ドイツ)。1923年に世界で初めて現在のスタイルのプラネタリウムを開発。設置実績は当館で611館目となる。国内では4館目であり九州初上陸。

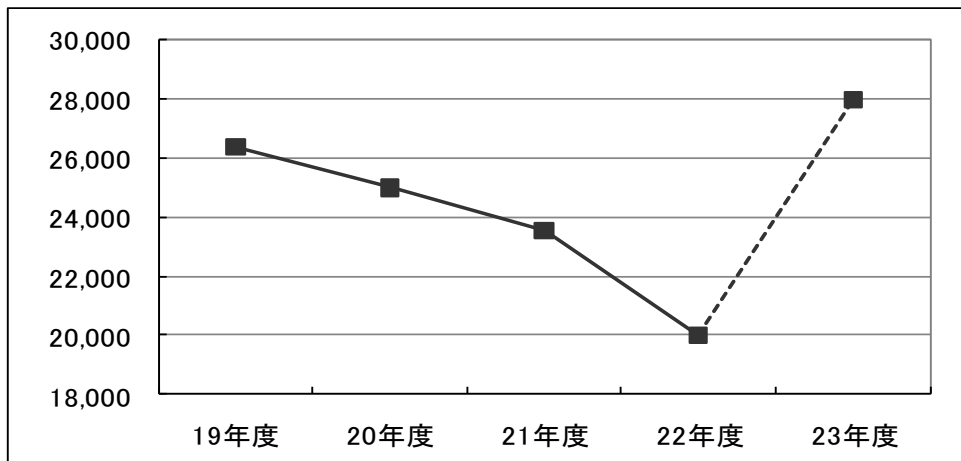
【 数値目標 】 ●入場者数 【28,000 人】

プラネタリウム入場者数の推移

※22 年度は見込値、23 年度は目標値

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
入場者数	26,377	25,000	23,538	20,000	28,000
対前年比	107.1%	94.8%	94.2%	85.0%	140.0%
対前年人数	1,740	△ 1,377	△ 1,462	△ 3,538	8,000

※平成 22 年度は改修工事による営業休止のため、実働 8 ヶ月での入場者見込数



#### ④ アクアドーム運営、健康レクリエーション事業

基本的な方向性は、①健康づくり運動等の実践者の総合的健康の維持向上を目指す。②地域に密着した健康づくり運動等が行える施設運営を行う。③お客様の要望に対応し継続可能な生涯スポーツ等へ誘う。一である。

#### ●アクアドーム

平成 23 年度、アクアドームは開館 20 周年を迎える。健康づくりの拠点として一般利用者の増加を図りながら新たな定期利用者を創出し、その存在価値を高めるための運営の工夫を行っていく。

健康づくり事業の中心的なプログラムであるウエルネスクラブは、平成 22 年度より新規導入した「40 歳未満の会員種別<sup>4</sup>」が好評である。平成 23 年度についても積極的な広報を行い、健康づくり運動実践者の総合的健康の維持向上に寄与していく。また、お客様よりの要望が多い「ジム年間利用料金システム」を企画検討する。

従来の派遣指導に加え、アクアドームまで距離があり利用機会が少ない地域の「ゆうゆうぷらざ」、「岬地区コミュニティセンター」、「池野地区コミュニティセンター」で指導員無料派遣による定期的なストレッチ指導を行い、地域に密着した健康づくりが行える施設運営を積極的に行っていく。

また、健康づくりの拠点としての活動を広く認知していただき、一般利用者の増加を図るため、ウエルネスクラブをはじめとする運動効果を具体的に紹介したチラシを新聞に折り込む等、広報活動を強化していく。派遣事業等で実施した内容や健康づくり事業の結果評価についてもわかりやすい表現で、ホームページやユリックスサラダなどで紹介する。また名画シアター開催時に、簡易体力測定を行う。広報の強化とスタッフと利用者とのコミュニケーションを通してお客様の要望に対応し、継続可能な生涯スポーツへ誘っていく。

レクリエーション事業においても「24 時間 E K I D E N」、「12 時間耐久スイム」、「ユリックスカップテニス大会」など幅広いプログラムの提供を行っている。特に「24 時間 E K I D E N」は広域から多数の参加を頂いており、宗像ユリックスを一大スポーツイベントとして定着している。企画運営は実行委員会形式であり、アクアドーム利用者と地域住民との協働・連携協力が図られている。平成 23 年度は新たに「グランドゴルフ大会」実施に向けた準備をスタートする。グランドゴルフは、生涯スポーツとして多くの人の愛されており、競技人口も多く短期間で大きな大会として成長する可能性を秘めている。会場は芝生広場を想定しており、エリアで熱心な活動を行っている団体の協力を得て、平成 24 年度開催を目指す。

<sup>4</sup> ウエルネスクラブ会員の年齢構成の中で極端に低い 30・40 歳代に対するコスト負担が比較的少ないプログラム。新たな顧客層の獲得と早期からの健康づくりを目指す。

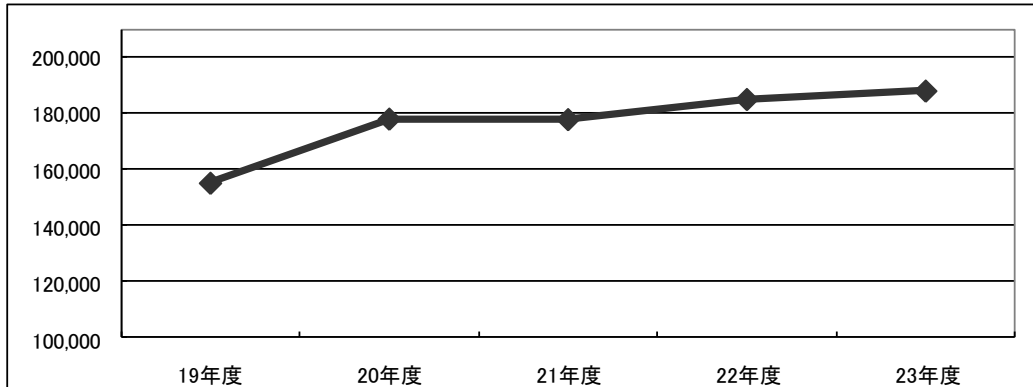
【 数値目標 】 入場者数 【188,000 人】

アクアドーム・入場者数の推移

※22年度は見込値、23年度は目標値

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
入場者数	155,119	178,000	177,824	185,000	188,000
対前年比	83.1%	114.8%	99.9%	104.0%	101.6%

※平成 19 年度は改修工事による営業休止のため、実稼働 10 ヶ月間での入場者数



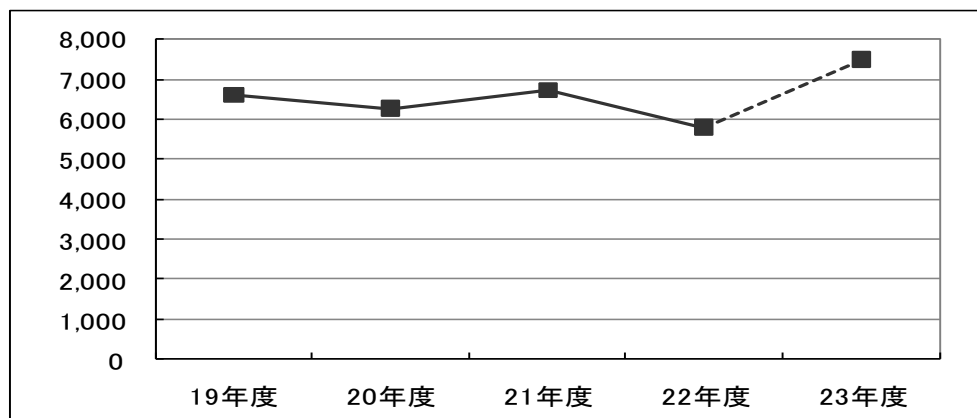
●パットゴルフ

健康維持を目的とした愛好家やファミリーでの利用など幅広い利用形態が見られることから、愛好家向けのペアパットゴルフ大会だけでなく、初心者向けの大会などを計画していく。利用者増加策として、需要期（3月～6月、9月～11月）に、主催事業でのチラシ折り込み、ユリックス・サラダでのPRを効果的に行う。

パットゴルフ場が、芝生広場の南側に位置しており、お客様が安全にそして安心して時間を過ごすことができる様に、芝生広場全体の安全管理に努めていく。

【 数値目標 】 入場者数 7,500 人

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
入場者数	6,627	6,274	6,741	5,800	7,500
対前年比	96.7%	94.7%	107.4%	86.0%	129.3%
対前年人数	△ 229	△ 353	467	△ 941	1,700

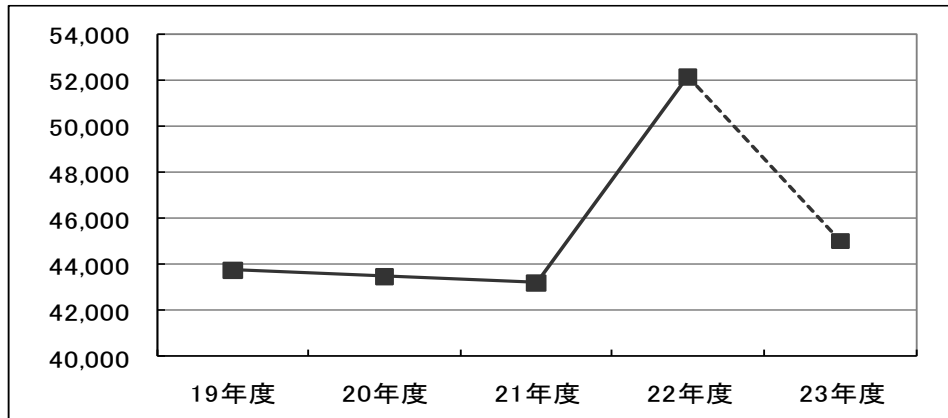


●ゆ～ゆ～プール

ゆ～ゆ～プールでは、ファミリー層（幼児、小学生低学年）をターゲットとしたサービス展開や子ども会などの団体が利用しやすいパック商品の利用を拡大する。  
また、団体料金で購入できる前売り券や他事業との共同チケットを販売する。

【 数値目標 】 入場者数 45,000 人

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
入場者数	43,745	43,476	43,194	52,165	45,000
対前年比	109.3%	99.4%	99.4%	120.8%	86.3%
対前年人数	3,707	△ 269	△ 282	8,971	△ 7,165



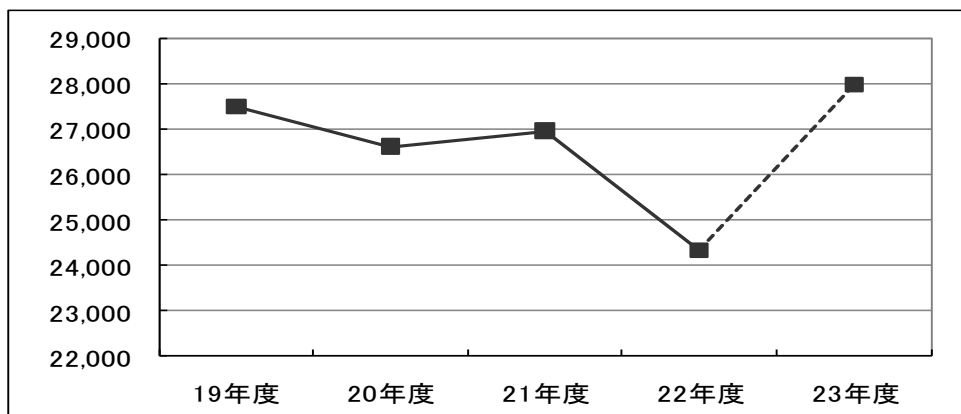
●テニスコート

テニス教室やテニス大会の実施にあたっては、グローバルアリーナの協力を得て行いながら、初心者向けのサービス内容を検討し、利用人口の底上げを図る。

【 数値目標 】 入場者数 28,000 人

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
入場者数	27,517	26,628	26,973	24,340	28,000
対前年比	106.3%	96.8%	101.3%	90.2%	115.0%
対前年人数	1,619	△ 889	345	△ 2,633	3,660

※平成 19 年度は改修工事のため、4 番～5 番コートが 1 ヶ月間営業休止



(3) 運営全般

① 施設管理・安全管理

宗像市が実施している保全工事について、平成 23 年度にはハーモニーホールの舞台照明設備の更新、本館地下の冷温水器設備の改修などを予定している。

平成 15 年度からスタートした第一期保全改修事業も 9 年目になり、来年度が最終年度となるが、当初、計画に組み込まれていなかった施設の劣化や老朽化が進行しており、今年度から、第二期を考えた保全計画の準備に取り掛からなくてはならない。

また、公社で行う修繕工事は館内外とも常に、情報網を張りお客様に快適な空間を提供するべく迅速な対応を行う。

緑豊かな公園内の植栽管理は、昨年度に人員一新された新体制で作業を行い、公園内が明るく、きれいになったと利用者からも好評を得ており、今年度も更なるレベルアップを目指して整備を行う。

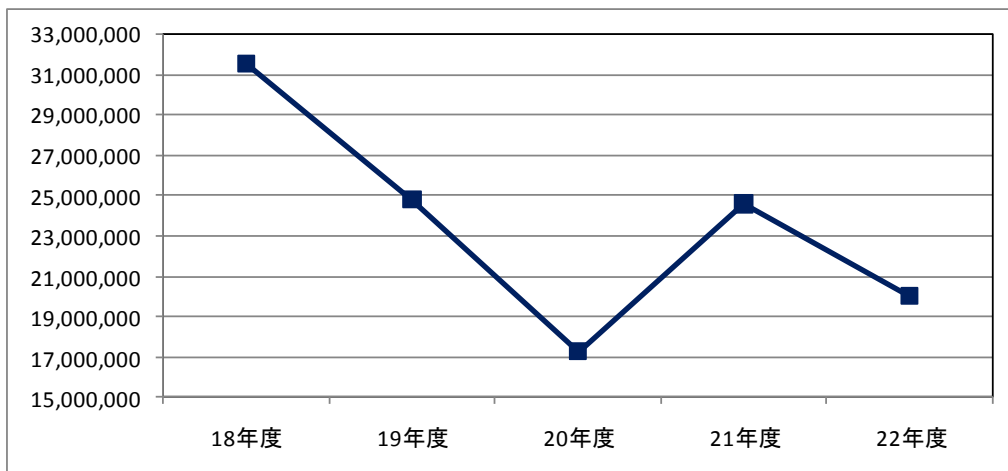
安全管理としては防災設備の法定点検や年 2 回の防災訓練を行い、公社職員はもとより関連する機関や委託会社の職員全員で、避難誘導・消化活動に励み、非常事態に対応できるものとする。

また、公社職員全員で行う安全総点検は、日頃、見慣れている施設や設備をもう一度チェックすることで、安全に対する意識高揚につながるものと継続して行く。

【 修繕状況 】

※22 年度は見込値

	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
修繕発生件数(件)	162	131	113	104	100
対前年度比	129.6%	80.9%	86.3%	92.0%	96.2%
修繕費(円)	31,560,776	24,796,827	17,266,555	24,594,145	20,000,000
対前年度比	109.0%	78.6%	69.6%	142.4%	81.3%





## ② 組織・運営体制

平成 23 年度は第二期指定管理者として 2 年目である。過去 5 年間の指定管理者としての経験、ノウハウの蓄積は公社として自信であり、新たに加わった市の文化行政に関する業務も市民ギャラリーの運営だけでなく、これからは文化の拠点に相応しい組織としてスタッフ全員の共通認識を持つことは、言うまでもない。また、市との連携をこれまで以上に行い日々の業務に取り組んで行く。

そのために、現在運用している「人事管理システム」<sup>5</sup>及び「人事評価制度」<sup>6</sup>にの効果的活用や職員研修を充実させ、公社職員全員の能力を向上させるとともに、組織力の強化を図る。このため、職員が安心して働けるように身分を安定したものとなるように、法に基づいた労使協定を結ぶことに努める。

また、今年度中に公益財団法人認定の取得に向け、評議委員会・理事会など統治機構のあり方など諸問題について研究を重ね、顧問の公認会計士のアドバイスを受け、先進地の成功事例などの情報収集を行い、最大限の努力で平成 23 年度中の認定が得られるよう公社職員一丸となって業務に取り組む。

## 【 人員体制の推移 】

	19年度 (20年3月末)	20年度 (21年3月末)	21年度 (22年3月末)	22年度 (22年12月現在)	23年度 (23年4月予定)
市派遣職員	4	3	3	2	2
プロパー職員	3	3	3	4	4
専任職員	1	2	3	3	3
嘱託職員	10	9	7	9	8
臨時職員	17	18	19	17	18
合計	35	35	35	35	35
特記事項	第1期指定管理 (2年目) 19年4月 新人事管理シ ステム運用開始	第1期指定管理 (3年目) 人事評価制度 試行開始	第1期指定管理 (4年目) ※最終年度 人事評価制度 本施行開始	第2期指定管理 (1年目) ※初年度	第2期指定管理 (2年目)

<sup>5</sup> 公社職員を中心とする組織を目指し、平成 19 年 3 月策定。職位、待遇等について規定。

<sup>6</sup> 「宗像ユリックス人事評価制度」。平成 20 年度を試行期間とし、平成 21 年度より運用開始。

## ③ 財政運営

第二期指定管理の 2 年目となる平成 23 年度は、「指定管理者として安定的な管理運営を遂行するため、中長期の財政状況を展望し、できる限り経常経費の圧縮、削減を進める」という従来の運営指針を引き続き堅持する。また、現在運用中の「新・公益法人会計方式」による予算科目・部門別及び宗像ユリックス全般の管理運営状況についてのデータ蓄積を活かした、公社ならではのフレキシブルな財政運営を行っている。そのための「オフィシャル・パートナー制度」<sup>7</sup>や今年度から導入する、「オフィシャル・サポーター制度」を活用し、ユリックス倶楽部会員及び施設利用料の増加、各種販売事業による手数料収入増加等の独自財源の確保、各業務委託料の精査等、財務体質の改善を図っていく。

公益法人改革については、平成 23 年度中の公益法人認定を目指し、新しい公益法人会計への移行も併せて実施して行く。

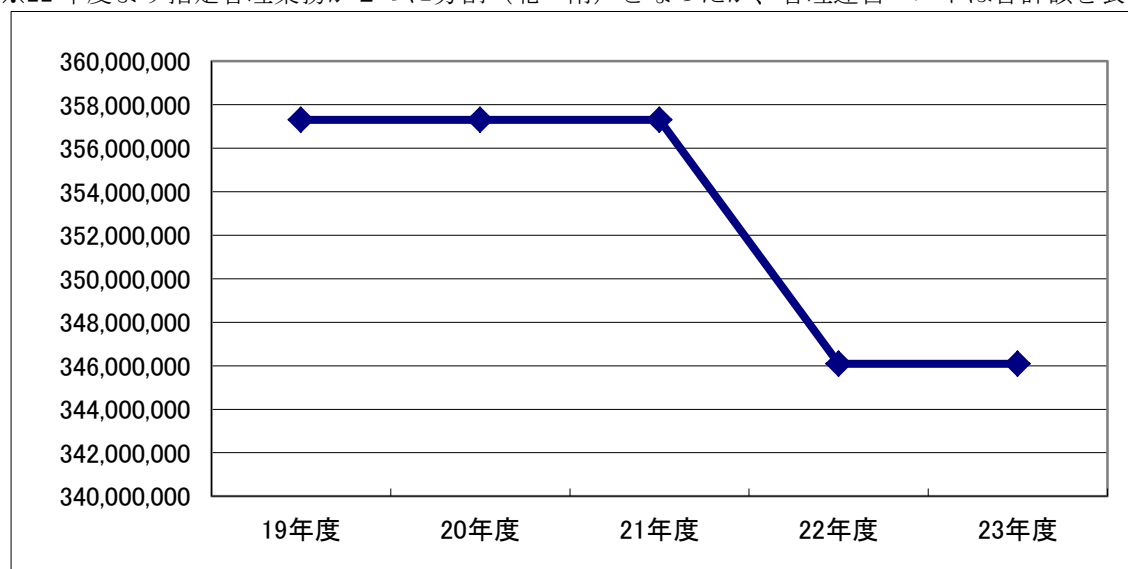
## 【 管理運営コストの推移 】

予算ベース	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
管理運営コスト	357,308,000	357,308,000	357,308,000	346,083,000	346,083,000
対前年削減額	66,928,000	0	0	11,225,000	0
対前年比	97.28%	100.00%	100.00%	96.86%	100.00%

※19 年度より正助ふるさと村分経費分離（平成 18 年度実績額：56,928,000 円）

※19 年度の対前年削減率は 18 年度正助ふるさと村経費削除分（367,308,000 円）と比較

※22 年度より指定管理業務が 2 つに分割（北・南）となったが、管理運営コストは合計額を表記



<sup>7</sup> 宗像地域の文化振興を目的とした支援制度。パートナー料は宗像ユリックスの文化事業（特に参加型・育成型事業）へ活用。平成 19 年 1 月 26 日、宗像医師会と協定を締結し、平成 23 年についても更新。